

中沼邸・街弁



中沼商店は横浜駅から京浜急行で一つ目の戸部にあります



中沼さんご一家はご両親と三人姉妹と孫たち。みんな近くに住んで、週末になると海辺の民宿を思わせる座敷に集まる。そんなご家族に惹かれて、私はこの店と家の基本設計をさせてもらうことになった。

町は日々変化し、将来どんな風になってしまうのか想像できない。



この通りに自分の顔はなく、建築は通りに対して無表情。全体が白々しく、語り合う雰囲気はない。



街はどんどん変化し、古い住民と新しい住民が入り交じる。



このぼさとした通りに活力を与えることができるのは商店しかあり得ない。

中沼商店がこの通りの中心（へそ）になって、旧住民と新住民が出会える場になれば意義深い。

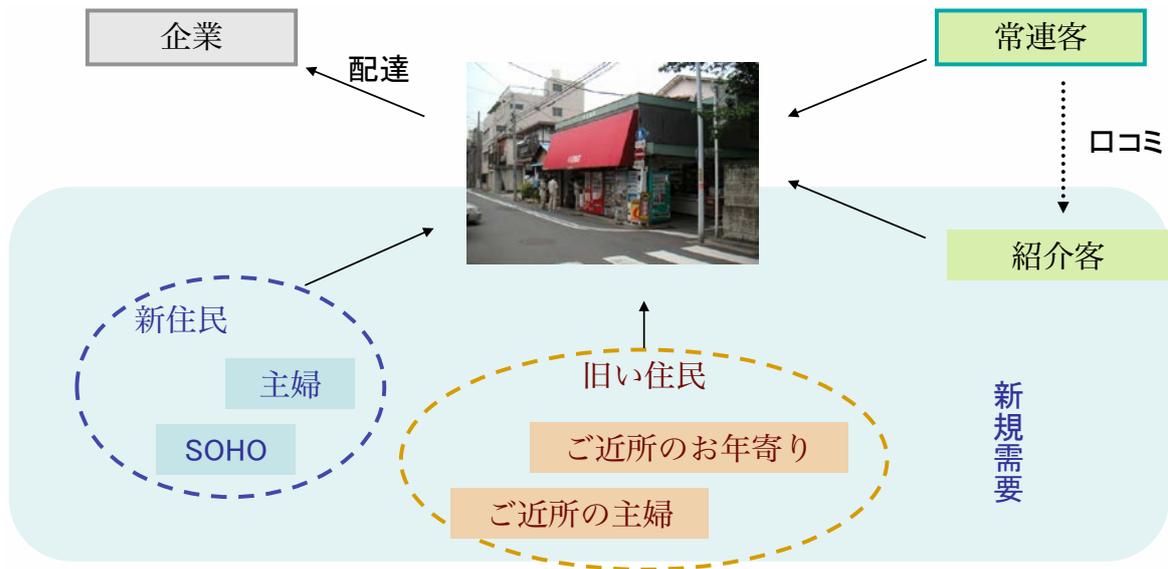


弁当の販売を通して町のへそとして機能する。そしてへそになることで店を発展させる。



店を街に開くことができる時間

一日のタイムスケジュールをチェックした

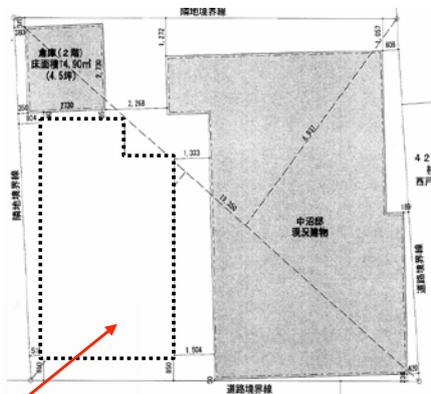


これまでは常連客が対象だったが、これからは新旧住民を対象に新需要を開拓していく。

まちべん

街弁

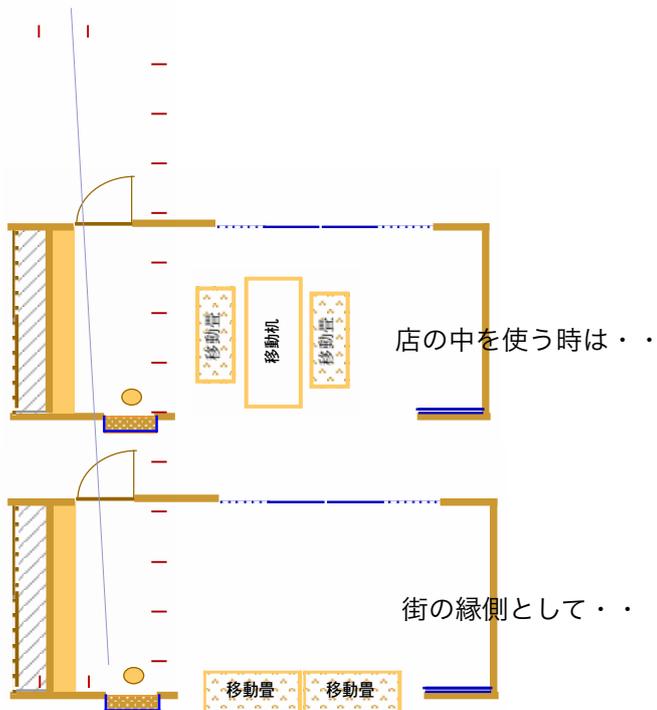
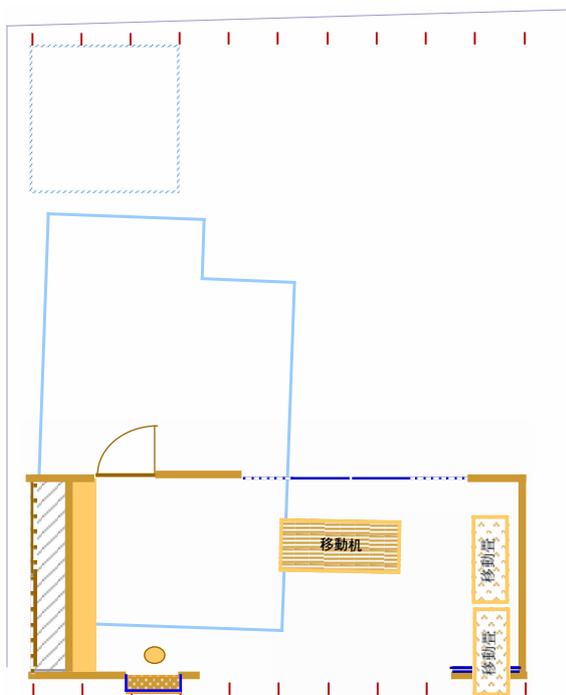
店の名は・・・街のお弁当屋さんということで



かわいらしい古い家がある

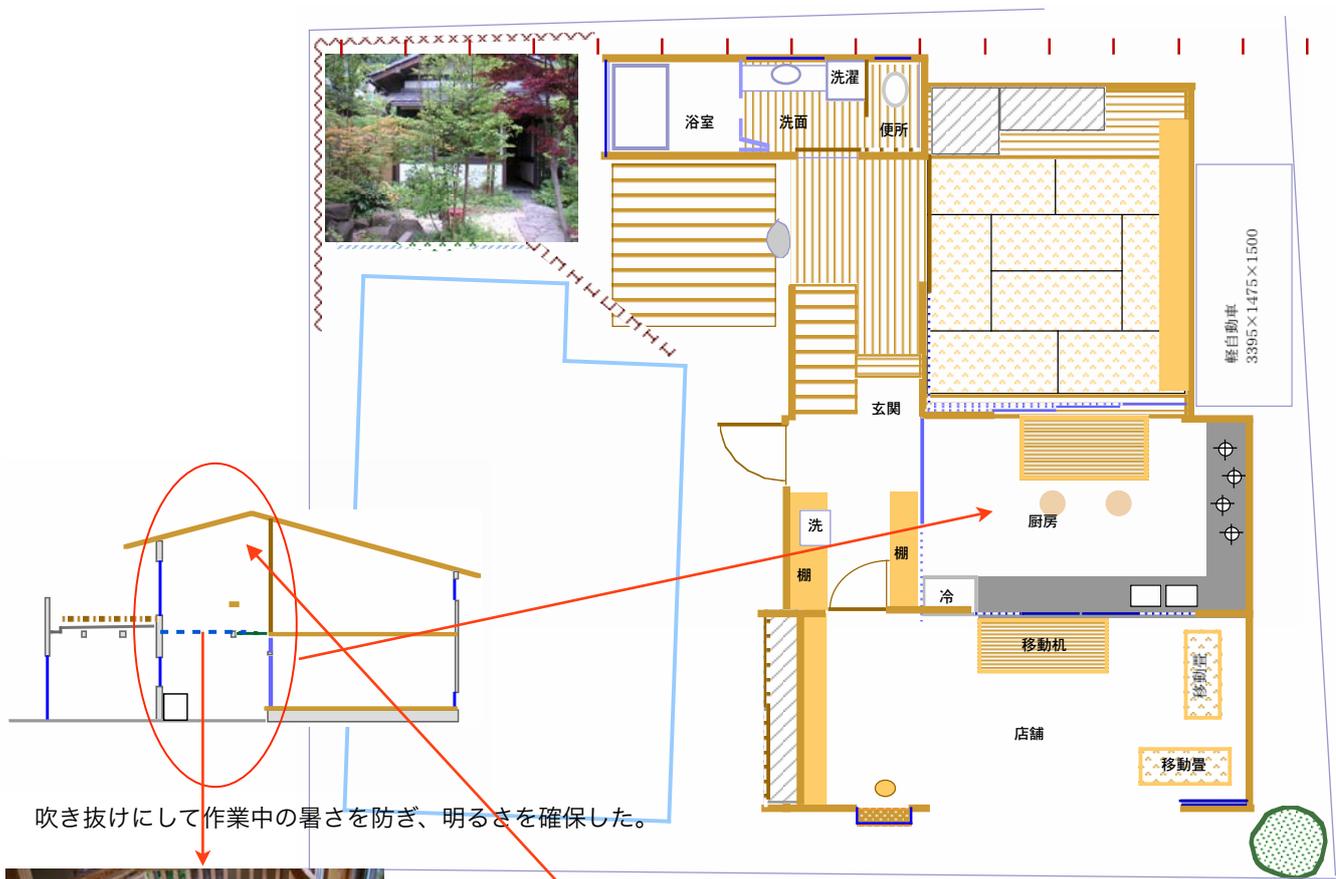


いよいよ設計に入った・・・

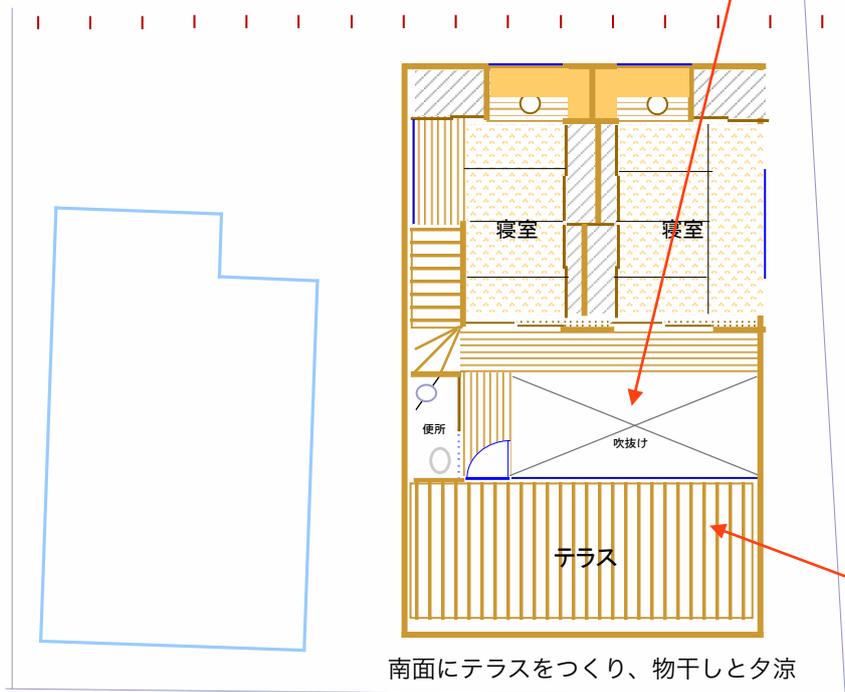


店の中はただの空間で、移動機と移動置が置かれているだけ。
弁当を販売している時は・・・

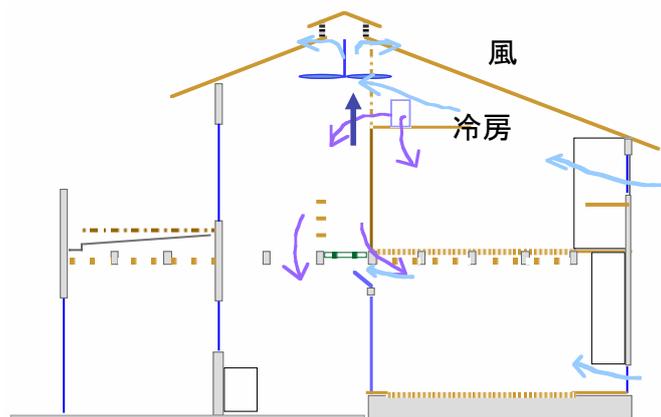
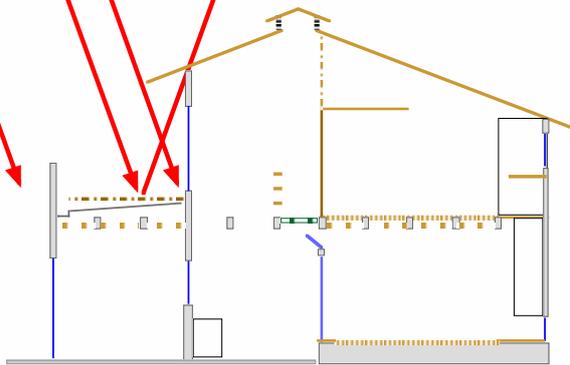




2階



夏の日差し



もちろん、陽と風と戯れるパッシブ設計



店の前に立って見上げて、家は庇の線しかみえない。

店が主役になる。

店は道に表情をつくる。

華奢な白木のガラス戸が街の人を店の中に引き込む。